【成長戦略課題】

火山防災対応の初動迅速化実現に資する火山ガスの連続観測に向けた研究(R7～9)

富士山科学研究所

背景

ハザードマップ改定

⇩

避難エリアが拡大

⇩

迅速な避難が必要

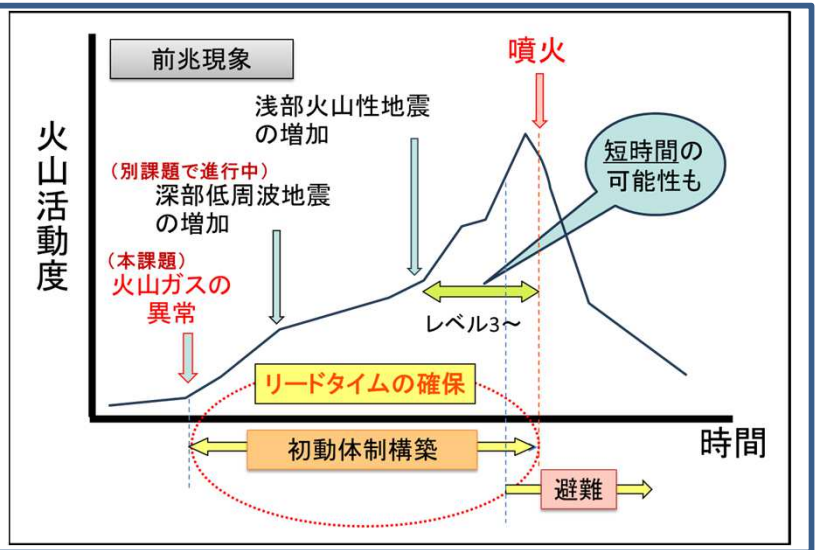
目的

・前兆の把握から短時間で噴火に至る可能性がある

・噴火の前兆現象を早期に検出し、リードタイムの確保が重要

⇩

・前兆を早期に検出可能な火山ガスの連続観測体制を構築



研究内容

マグマ活動に敏感なトレーサーである**ヘリウム**と**炭素**の同位体比を測定

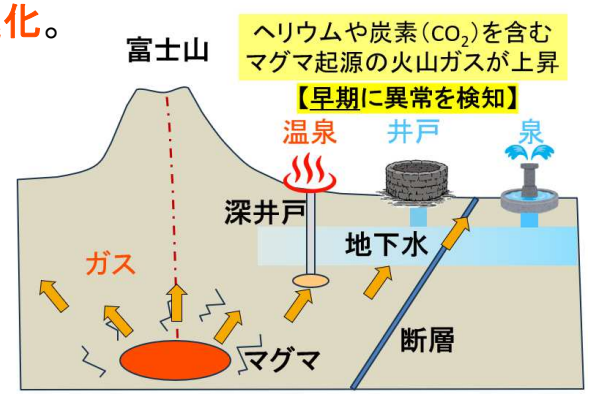
1年目	2年目	3年目
観測点の選定 →		
観測手法の最適化＆定期観測の継続(2カ月に1回) →		
準リアルタイム分析手法の構築 →		
選定した観測点において火山ガスの連続観測の実施 →		
観測データの蓄積、定常状態の把握 →		
		長期観測点としての評価 →

期待される効果

・火山ガスの**連続観測手法**の確立。
・火山ガスの観測に基づく**火山活動度の評価**が可能。
・他の観測項目と合わせて前兆の早期検出により、**初動対応の迅速化**。

⇩

・**迅速な避難**。
・**逃げ遅れゼロ**の達成。



共同研究者：東京大学、大阪大学